

◇本校の実態

活かし伸ばしたい要因	考慮すべき要因
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校生600名強の大規模校 ・ 価値観や環境の多様性 ○ 50名弱の教職員とスタッフ ・ 専門性を生かした支援や指導が可能 ○ 資質・能力を育む生活科・総合的な学習の時間を核とした教科等横断的な視点での学びの実践 ・ 自ら課題を見つけ、資質・能力を伸ばす学び ・ 教科の学びを活用、双方向の学び ○ NRT・全国学調とも全国平均+高 ○ 地域・保護者の学校への協力体制 ・ 教育に熱心、学校に協力的 ○ 公共施設、自然や歴史など豊かな地域環境 ・ 県立図書館、美術館、ふたつ山公園、一盃森 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の多様化 ・ 支援級・不登校・いじめ・価値観 等 ・ 規律、決まりによる指導の限界 ・ 人権教育の必要性 ○ 規範意識 ・ 挨拶励行、決まり遵守の指導の変容 ○ 学力の二極化 ○ 体力テスト結果 ・ 全国平均-低い、二極化 ○ 教職員の長時間勤務・教員不足 ・ 業務の抱込み、学級担任の抱込み ○ ICT等、増え続ける新課題への対応 ・ 教育への期待増加、カリキュラムオーバー

◇国・県・市等の方針 日本国憲法 学校基本法 教育基本法
 学習指導要領(H29)・令和の日本型学校教育(R3)
 第7次福島県総合教育計画・R5福島市の教育 等

◆基本的な考え

◎ 誰一人として取りこぼすことのない、すべての子どもの学習権を保障する。

森合小学校は、地域の学校であり、その地域の子供たち誰一人として取りこぼすことなく、学校に通い学ぶことを最優先する。特別に支援を要する子どもも含めて、子供一人一人の違いや特質を個性と捉え、全ての子供が一緒にいることが当たり前、共に学ぶことに意義があることを自覚する。学校は、すべての子供にとって「安心な居場所」になるよう最善を尽くす。

- ・ 差別、区別のない学校
- ・ 地域や保護者の力を借りて、全ての子供を受け入れる。
- ・ 不登校0 全ての子供に居場所があることが第一歩 ⇒ そこから学びが始まる。

○ 地域住民・保護者・子供・教職員のすべてが、「みんなの学校」をみんなで創る。

学校は、長い間、その地域で大切にされ、地域の人々を育ててきた「地域の宝」である。地域住民・保護者・子ども・教職員のすべての人々が、自分事として関わるように、いつでも、誰にでも学校を開放し、「みんなの学校」をみんなで創っていく。

- ・ 「学校が抱え込む」「見せる」を捨て、子供のありのままの姿を、全ての大人が共に支える。
- ・ 地域・保護者・教職員などの大人は子供の伴走者として、それぞれ支え、関わる。

○ 「持続可能な社会の創り手」を育成するカリキュラムマネジメントを編成する。

激しい変化、予測困難な時代は正解が一つではなく、他者と納得解を見出していく力が必要である。「持続可能社会の創り手」育成のため、目に見える学力と共に、目に見えない学力である資質・能力を育成、個別最適な学び、協働的な学びを実現するカリキュラム・マネジメントを展開する。

- ・ これまでの概念や価値観、知識が通用しないことを自覚し、押しつけの指導を改める。
- ・ 「自分の考えを持つ、自分を表現する、自分を大切にする、チャレンジする力」を重視する。
- ・ 「面白そう」「知りたい」など興味や関心、学びは楽しい、学びに夢中を大切にする。
- ・ 資質・能力の育成、個別最適な学び、協働的な学びを実現する。

◇具体的な取組み

- 共同担任制（学年担任制、学級担当制） ○ 教科担任制 ○ 生活総合を核（個別最適化・協働的な学び）
- みんなの森合小メンバー（学習支援・清掃支援・居るだけ支援・校外学習支援）
- 特別支援学級 学びの個別化 通常学級で共に学ぶ ⇒ 教室配置 学年・職員室の近くに
- 働き方改革 改善・・・校務分掌のスリム化、仕事の削減、
- 校舎内外の整理整頓・・・不要物の破棄（備品・文書・ファイル・パソコンデータ 等）
- 市委託 R5・6（1年次：R5 オープン研修 2年次：R6 公開）